



Newsletter

科学技術分野の未来を拓くー高専における男女共同参画ー

第5号
2015.2

■全国に点在する女性教職員のネットワークづくりを支援！

平成26年度 女性研究者研究交流会を開催しました

全国の高専から約80名の女性研究者が参加

平成26年12月15日（月）学術総合センターにおいて、第3回目となる「女性研究者研究交流会」を開催しました。

全国の国立高専及び他高専からも参加があり、約80名の女性教職員が一堂に会し、午前・午後とポスターセッションが続くなか活発な交流が行われ、昨年同様盛会裡に終了しました。

午前は小畑理事長の開会挨拶、河村潤子文部科学省生涯学習政策局長の来賓挨拶、奈良高専上田教授による女性研究者支援の取組報告の後、基調講演が行われ、午後にはパネルディスカッションが開催されました。

小畑理事長による開会挨拶



河村潤子文部科学省生涯学習政策局長による来賓挨拶



PROGRAM

10:00	開会挨拶	小畑秀文理事長
10:05	来賓挨拶	河村潤子氏（文部科学省生涯学習政策局長）
10:20	事業説明	上田悦子（奈良高専教授）
10:30	基調講演	「高専における女性研究者の発展に向けて」 内海房子氏（独）国立女性教育会館理事長）
11:20	研究発表	
13:40	パネルディスカッション	パネリスト 岡崎久美子（仙台高専教授） 若杉 玲子（熊本高専講師） 岩熊美奈子（都城高専准教授） モデレーター 大島まり理事
15:40	研究発表	
16:40	閉会	

基調講演「高専における女性研究者の発展に向けて」

国立女性教育会館理事長の内海房子氏より基調講演をいただきました。均等法制定前の時代に女性技術者として企業に入社し、組織のトップまで務めたご自身の紹介のあと、日本の男女共同参画の現状や女性活用の課題等についてお話しされました。

女性を育てる側の男性上司は「決めつけない・期待する・鍛える」ことが、女性自身は「チャンスを活かし、果敢に挑戦する（Chance、Change、Challenge）」ことが大切であるとメッセージをいただきました。



ポスターセッション

ポスターセッションでは前半と後半のコアタイムを設け、59名の発表者が自分の研究や日常の教育活動、キャリアパスなどを発表しました。各ブースで熱気を帯びた意見交換や情報交換が繰り広げられ、専門分野・地域・年齢等を超えて交流を深めあいました。

また、国立女性教育会館 内海理事長及び文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課 和田勝行人材政策推進室長も、開会から引き続き研究発表にも足をお運びいただき、熱心に研究発表者の発表に耳を傾けてくださいました。



会場での文科省和田室長



パネルディスカッション



（左より）パネリスト
岡崎教授（仙台高専） 若杉講師（熊本高専） 岩熊准教授（都城高専）

モデレーター 大島まり理事



「高専で切り拓く女性研究者の未来 ～一人ひとりの取組から考える～」をテーマに、モデレーターの大島理事と3名のパネリストから自己紹介、研究紹介、研究環境を整えていくポイントなどを発表していただいた後、会場から寄せられた質問票に基づき「研究のとっかかり、人脉づくり、日々のタスクのこなし方、ストレス解消、女性教員としての学生対応」などについて、ディスカッションが行われました。



岡崎教授は英語の教科書開発を通して研究分野の広がりが生まれた経験を文系の立場から話されました。



若杉講師からは子育て・遠距離通勤をしながらも欲張って何でもこなして行くのがモットーとの力強い発言がありました。



岩熊准教授からは、こちらから出向く姿勢や他の先生の出張等の交代を積極的に引き受けておくなど人間関係が大切と話されました。

パネリストの前向きな覚悟が伝わるパネルディスカッションとなり、参加者からは「頑張ろうと言う気持ちになった」「勇気を与えられた」と感想が寄せられました。

女性研究者研究活動支援事業 終了にあたって



奈良高専 教授 上田悦子
女性研究者研究活動支援事業実施責任者
(男女共同参画推進室併任教員)

高専機構では、平成22年度に男女共同参画推進委員会、平成24年度に男女共同参画推進室を設置して以降、平成24年度から3年間文部科学省補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、女性研究者の研究力向上と研究環境の改善を積極的に進めてまいりました。この3月をもって「女性研究者研究活動支援事業」が終了するにあたって、女性教員・女性技術職員を対象にアンケートを実施し、「意識改革につながった」「女性の比率が向上した」「この3年はきっかけづくり、結果を出せることではない。活動を継続することにより評価が高くなっていく」など、さまざまなコメントをいただきました。

高専機構における男女共同参画推進の活動は緒に就いたばかりで、今後も引き続き推進して行く必要があります。当事業は終了しますが、男女共同参画推進室において、これまでの経験知を活かしながら、女性研究者の支援において有効であった取り組みの継続・展開を努めてまいります。引き続き、皆様のご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

研究支援員配置制度について

研究支援員配置制度を利用された方からの感想を一部ご紹介します！

H24年度より文科省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」による研究支援員配置制度を実施しています。

育児・介護等で研究に十分な時間を確保することが困難な女性研究者等を対象にした制度で、年々利用が増え、3年間で延べ40名(女性教員39名、男性教員1名)の利用者がありました。利用者へのアンケートでは、本制度の継続を希望する声が多数寄せられています。

〔研究支援員配置制度は、機構の事業として引き続き実施いたします。〕
〔平成27年度の募集要項は各高専の担当係にお問い合わせください。〕



奈良高専 情報工学科
松村寿枝 准教授 (H24.4~H27.3利用)

左から 河村さん、松村先生

Q.研究支援員の配置による効果は？

研究支援員を付けていただいて、研究はかなり進んだと感じています。子どもが小さく遅くまで残れない時間の中で、手の回らないデータ整理やプログラム作成をしてもらい助かりました。

Q.今後の要望等は？

引き続き、このような取り組みが続いてほしいと願っております。また、支援員を個人で探すことは難しいと感じました。私は他の先生からのご紹介で卒業生の方にお願いすることができましたが、求人マッチングする仕組みがあれば探しやすいと思います。

Q.研究支援員からの感想は？(河村絵美さん)

高専卒業後、専門分野から離れていた期間があったため、最初は不安がありました。今は、もう一度、高専時代に学んだ事を生かす事が出来るととても充実感を感じています。



函館高専 一般科目・理数系
山本けい子 准教授 (H25.5~H27.3利用)

左から 山本先生、近藤さん

Q.研究支援員の配置による効果は？

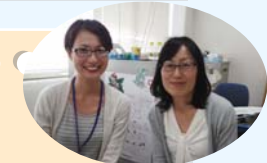
昨年は新任で余裕がない状況でしたが、データ整理やプレゼンのスライド作成などをしてもらい、研究を継続することができました。業務多忙で研究支援の指示を的確に出せなかったことも多く、その点は残念に思っています。

Q.今後の要望等は？

短期利用でなく、1年間いてもらうことで、より理解した支援が可能になると考えます。また、この制度が卒業生のキャリア支援の受け皿になれば良いと感じています。

Q.研究支援員からの感想は？(近藤雅美さん)

研究に必要な知識だけでなく、基礎知識として苦しい数学なども学習しながら勤務ができたので、高専OG、理系女子としての自信になった気がします。次の仕事を探す際に、OGであるメリットを生かし、他高専も含めた採用案内があると嬉しいと思っています。



奈良高専 物質化学工学科
宇田亮子 准教授 (H26.4~H27.3利用)

左から 西本さん、宇田先生

Q.研究支援員の配置による効果は？

実験系の研究に携わっていますので、支援員は非常に役に立ちました。研究テーマを担当しての実験の他、データ整理や試薬の管理などフルにやってもらい助かりました。

Q.今後の要望等は？

研究内容や利用者が置かれた個々の状況を反映した柔軟な形態での支援が望ましいと考えます。また、少し自己負担をしても必要な雇用時間を希望する方もあるのではないのでしょうか。

Q.研究支援員からの感想は？(西本徳子さん)

本学科の卒業生で実験業務は合っていました。子どもが幼稚園なので週19時間勤務で助かっています。フルタイムで働くのはまだ先かなと思っています。
(*西本さんは産休のため12月に退職されました。)



函館高専 社会基盤工学科
菊池幸恵 助教 (H26.6~H27.3利用)

左から 畠山さん、菊池先生

Q.研究支援員の配置による効果は？

高専1年目で研究する時間がなかなかとれなかったため、コンスタントな支援はとても助かりました。支援員の方が卒業生で学科を良くわかっており、また、ともに子育て中であったので、気持ちの上でも大変心強く感じました。

Q.今後の要望等は？

学科の先生方から卒業生にお声掛けしてもらい支援員を探しました。データバンクがあると良いと思います。

Q.研究支援員からの感想は？(畠山裕美さん)

結婚・出産により、土木職から離れていましたが、研究支援員となり「また、土木の仕事がしたい！」という意識が芽生えました。今回の経験を活かし、さらにステップアップをしていきたいと考えています。

私のスタイル インタビュー

小山工業高等専門学校 一般科（化学）准教授
森下佳代子

- 1999年3月 群馬大学大学院工学研究科生産工学専攻 博士後期課程修了
博士（工学）取得（群馬大学）
- 1999年4月 北海道大学先端工学研究センター 博士研究員
- 2002年4月 群馬大学大学院工学研究科 助手を経て助教
- 2009年4月 現職（就任6年目）



赤城小沼にて息子と

●仕事の内容、やりがいとは？

エネルギー・環境・材料をキーワードに研究を展開しています。現在、最も注力している研究は、金属廃液からの有価金属の高効率回収（科研費関連）と、廃棄物の有効活用です。後者は研究支援員の宮下さんと立ち上げたテーマで、関係の知財コーディネーターから面白いとの評をいただき、現在、特許準備中です。専門分野は化学工学で、マイナスをプラスに転じる技術や一石二鳥になる技術を考えるのが好きです。

学生時代から通算して二十余年、エネルギーや環境について勉強してきた、肩唾物のエコロジー論が流布されている現実と直面してきました。せっかく学んできた事柄を、少しでも還元したくて、子供たちやお母さんを対象にしたお話をライフワークにしたい！と考え、現在模索中です。手始めに、学生や宮下さんを相手にエネルギーやリサイクルの話をしていますが、<目から鱗>といった表情を引き出せた時は、「やったー！」と思う瞬間です。

●仕事と生活とのバランスは？

環境に恵まれて、産休明けすぐに復帰し、仕事も家庭も大いに楽しんでいます。我が家は、家事の分担の取り決めが特になく、手が空いている者が家事をするという基本合意があるだけです。夫が在宅の仕事ということもあり、結果として、やりたいことをやりたいようにさせてもらっています。通勤はドアtoドアで2時間弱かかりますが、仕事モードと家庭モードを切り換えるのにちょうどよい時間になっています。朝6時半、息子と夫の熱烈的な声援を受けて出勤し、日中は、配置していただいた研究支援員のサポートを受けて仕事に没頭します。おかげで、週15時間の授業、担任、学年主任等の校務に加え、科研費研究、共同研究をこなしながらも19時頃に退室できています。21時近くに帰宅して、小猿のように飛びついてくる息子とベッドに潜り込みながらお喋りをして、寝かしつけるのが日課です。普段は眼鏡を使用していますが、週末は眼鏡をかけずに大いに遊びます。息子にわかるように始めた「眼鏡をかけている時はお仕事、かけていない時はお休み」のサインですが、眼鏡が自分自身のスイッチにもなっています。

私が仕事と生活のどちらも楽しめているのは、家族と実家の協力に加え、研究支援員制度を利用できていることが大きいです。家族や両親、宮下さんに、日々、感謝しています。

●休みの日の過ごし方、ストレス発散方法は？

休みの日は、お気に入りの「群馬こん虫の森」に出かけて里山を散策したり、サンタさんがプレゼントしてくれた体操マットで、息子と逆立ちの練習をしたりしています。また、お手伝いが大好きな息子と一緒に、家中を掃除し、台所に立って好きな料理をします。私が料理を始めると、夫も台所を覗きに来ます。週日の家事を全て引き受けてくれているので、近頃は料理の腕もだいぶ上がった夫ですが、週末のみ開店する“ママのレストラン”を楽しみにしてくれています。もともとやりたいことをやっているの、あまりストレスを感じることはありません。息子が生まれてからは、どんなことをしてびっくりさせようか、喜ばせてあげようか考えるだけでワクワクしています。息子の歓声や夫の笑顔に、ストレスが寄ってこないのかも知れません。つくづく幸せ者だなあと感じます。



実験！
レモンで紅茶の色が変わる
(撮影 夫)

●後輩へのメッセージ というより 単なるつぶやきです。

現在の職に就いて、人を育てる楽しさを実感するようになり、以前だったらパートナーとして考えられなかったであろう人と結婚するに至りました。夫や義母と生活を共にして、価値観の多様性について考えさせられることになり、保護者との対応の場面でも、様々な価値観があることを認められるようになりました。「先生、ここ教えて！」と訊きに来る学生達の「わかった！」を引き出す面白さを体感し、息子の「なぜ？どうして？」が楽しみになりました。仕事と家庭のバランスがとれているかどうかは疑問ですが、どちらも存分に楽しむことによって、相乗効果で経験値が上がっているように思います。最後に、私の座右の銘を披露。『Que Sera Sera♪』

●研究支援員 の一言

研究支援として、最新の電子顕微鏡を操作したり、機器分析に携わらせていただき、大学で学んだことが役に立っていると実感する一方で、もっと学生時代に勉強しておけばよかったと思う日々。研究室のテーマは、私たちの身近な課題を解決しようとするものであり、とても興味深いです。時には主婦目線でのチェックを要求されることもあり、楽しくサポートさせていただいております。
(研究支援員・宮下貴子)

実施報告

2014高専女子フォーラム

女子学生のキャリア教育の意識醸成、社会に向けた「高専女子ブランド」の発信を目指し、平成25年度から3年間にわたり全国で実施される高専女子フォーラムが、今年度は東海北陸・北海道・中国地区で開催されました。また、近畿地区7高専主催の「高専女子フォーラム in 関西」が開催されました。フォーラムでは、女子中学生・保護者に向けて女子学生のポスター発表、企業の方からの発表及び女子学生の企業に向けてのポスター発表を行いました。どの会場も多数の参加者があり、高専の女子学生の活躍に対する期待の高さがうかがえるものとなりました。

★高専女子フォーラム in 東海北陸 開催：8月25日 代表幹事校：富山高専

400名近い参加者があり、たいへん盛況となりました。企業の方からは「学生たちの発表は、レベルが思った以上に高く驚いた。授業・研究だけでなく、規律正しい寮生活や部活等の課外活動を通じて、皆、自律していることに感心させられた」などの感想が寄せられました。



企業の方との名刺交換

★高専女子フォーラム in 北海道 開催：9月6日 代表幹事校：釧路高専

女子学生の企業に向けた発表では、企業の方から「驚いた。1年生なのに堂々と発表していた」「今までこのような機会がなかったが、とてもよかった」と非常に好意的な意見をいただき、高専女子学生の実力の高さを印象付けることができました。



企業の方への発表の様子

★高専女子フォーラム in 中国 開催：12月20日 代表幹事校：呉高専

女子学生64名が企業の方々に前に堂々とポスター発表を行い、質問にもしっかりと答えました。また、企業からは45件の発表がありました。閉会式では大島理事から高専女子学生たちの活躍に期待する言葉が述べられました。



学生発表の様子

★高専女子フォーラム in 関西 開催：12月23日 近畿地区7高専主催

本フォーラムは、地区高専主催のフォーラムとして今後の先駆けとなる試みとなりました。学生のポスター発表ではコミュニケーションを取りながら交流を深めました。企業の方の発表では、女性が働きやすい職場や子育て支援策などについて紹介がありました。



企業発表の様子

【平成27年度 開催地区】

東北地区

平成27年12月19日 / T K P ガーデンシティ仙台 (代表幹事校：仙台高専)

九州沖縄地区

平成28年3月21日 / 西日本総合展示場新館 (代表幹事校：北九州高専)

高専女性教員のキャリア形成支援ワークショップ

「高専女性教員のキャリア形成支援ワークショップ」が平成26年8月28日(木)に、全国高専教育フォーラム(金沢大)において開催されました。前半は八戸高専の阿部恵教授、富山高専の新開純子教授、福井高専の常光幸美教授による事例発表があり、続いて、事例発表者の3名をパネリストに、明石高専の京兼校長をコメンテーターに迎え、奈良高専上田教授の司会によるパネルディスカッションが行われました。

アンケートには、高専教員のライフヒストリーを聞き、同じ悩みや、意識があることを知って励みになったという意見や、日頃の業務、研究、そしてこれから生じるライフイベントへの不安が少し解消されたという意見が寄せられ、本ワークショップが、参加者自身のキャリアについてじっくり考える機会を提供できたことがうかがえました。

※当日のビデオは「学認連携 Moodle 講習サイト」に掲載されています。



各大学で高専教員職ガイダンス

★お茶の水女子大学ガイダンス

日時：平成26年11月12日(水) 17:00~18:00

説明：清水理佳 助教(群馬高専)

お茶の水女子大学において、高専教員職ガイダンスを行いました。OGの高専教員が講師に出向き、高専の概要や教員の仕事を説明するとともに、人事課担当者が採用に関し説明しました。参加学生は、メモを取りながら熱心に聞き入り、活発な質疑応答がありました。



★東京農工大学ガイダンス

日時：平成26年12月10日(水) 15:00~16:00

説明：加藤 格 教授(東京高専)

東京農工大学において、高専教員職ガイダンスを行い、約30名の参加者がありました。参加学生には高専出身者も多く、熱心にメモしながら聞き入り、説明終了後に積極的に質問するなど、母校での教員職をキャリア選択の一つに考えている様子が感じられました。



NWEC 図書パッケージ貸出サービス

国立女性教育会館が行っている男女共同参画等に関する図書貸出サービスの利用を開始しました。平成26年10月からの1年間で4高専が利用を予定しています。



女性研究者支援オフィス

◆高専女子学生向けキャリア形成支援ワークショップ

昨年度から、支援オフィスのキャリアカウンセラーがファシリテータとなって各高専に出向き、高専女子学生支援の一環として「自分のキャリア」について考える機会を提供する「高専女子学生向けキャリア形成支援ワークショップ」を実施しています。



■奈良高専 9月12日(金)

『なぜチーム力が求められるのか』

15:30-16:30 (本科1・2年)

『自分をマネジメントする』

16:45-17:45 (本科1~5年)

■仙台高専 1月20日(火)

『仕事の可能性について』

16:20-17:50 (本科2年~4年)

(於：広瀬バス

広瀬・名取キャンパスから参加)

◆女性教職員向けワークショップ

支援オフィスでは、男女共同参画推進モデル校である函館高専を訪問させていただき、意見交換及び女性教職員向けのワークショップを実施しました。ワークショップでは、女性教員を対象にアクティビティを交えながら自身の仕事観(職業観)について整理してもらい、お互いの考えについてもざっくばらんに楽しい雰囲気でも共有していただきました。



独立行政法人国立高等専門学校機構 男女共同参画推進室

〒193-0834 東京都八王子市東浅川町701-2

E-mail danjo@kosen-k.go.jp TEL 042-662-3151